

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
施 設 名	仙台市青年文化センター（日立システムズホール仙台）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,016	(千円)
公 演 事 業	8,939	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,486	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,591	(千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	茂木大輔と仙台フィルの「味わいつくす!クラシック」～第1回「田園」の巻～	5年11月10日	ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」他、指揮：茂木大輔 フルート：高木綾子 管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団	目標値	560
		コンサートホール		実績値	465
2	仙台フィル“コラボレーション”シリーズ オーケストラとバレエの世界	6年1月14日	ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」ほか、指揮：末広誠 バレエ：ハイパーウィンド仙台 管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団	目標値	400
		シアターホール		実績値	460
3	名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」vol.30～三大交響曲の輝き～	6年2月23日	ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」他、指揮：太田弦 管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団	目標値	660
		コンサートホール		実績値	769
4	日立システムズホール仙台 presents Atoa. × シアターホール 創作公演「ココカラ先へ」	6年1月21日	Atoa.〔和太鼓演奏・総合演出〕共演：津村禮次郎〔能楽〕、森山開次〔舞踊〕ほか	目標値	1,000
		シアターホール		実績値	317
5	ライブ文学館 Vol.20 「『ブラザー軒』の詩人菅原克己の詩を歌う」	6年3月2日	曲目「げんげの花について」他、演奏：佐久間順平（ボーカル・ギター・ヴァイオリン）、榊原光裕（ピアノ）、白鳥英一（朗読）	目標値	566
		シアターホール		実績値	188

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演劇による震災伝承事業 「Voice～仙台市東部沿岸 地域の伝承と物語～」	5年9月17日～ 3月9日	公募した15～25歳の若い受講生が 震災被害にあった地域に伝わる伝承 や震災前の生活を調査し、それを戯 曲化した演劇公演を行った。 講師・演出：高橋菜穂子（東北えび す）	目標値	参加者： 20／演劇 公演入場 者：500
		練習室4、交流ホール		実績値	14／185
2	高校演劇部のためのステ ップアップ・ワークショ ップ	6年2月23日	[講師] 三浦直之（劇作家・演出家・ 口口主宰）※仙台市出身	目標値	300
		アトリエ		実績値	3

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	令和5年度「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」	5年 7月6日・7日・10日 10月23日～26日 11月6日～8日	仙台フィル団員が市内小中学校を訪問してミニコンサートを開催した※当初予定していたオーケストラ形式の公演も体験していただけるように授業教材としても活用できる動画コンテンツを収録しYouTubeによる配信を行った。	目標値	【公演収録(オーケストラ)】対象77,000 【学校訪問ミニコンサート】参加者4,600
		市内小中学校 57校		実績値	4,426
2	第3回 日立システムズホール仙台パフォーマンスフェスティバル	5年 11月25日 11月26日	公募で選ばれたアマチュア実演家30組によるステージ、地元サクソ奏者・熊谷駿によるリクエストコンサートのほかワークショップや出店など多彩なプログラムで開催した全館イベント 熊谷駿(サクソ)、仙台社会人アカペラサークル カレイドスコープ、公募出演者ほか	目標値	参加者：20組程度 ／入場者：のべ3,000
		日立システムズホール 仙台全館		実績値	3,203
3	ダンスのいりぐちプログラム	5年9月18日～10月9日 6年3月2日・3日 3月24日	対象・テーマを50歳以上、親子、「音とダンス」と設定し開催した。 講師：佐藤有華、早川朋子、岩淵貞太	目標値	参加者：40程度
		エッグホール、練習室4 ほか		実績値	120
4	仙台おどりラボ	6年2月17日、18日	踊らないダンスワークショップと題して、ダンスの見方を深めるワークショップを開催した。 ダンサー：深谷正子 監修：飯名尚人(映像作家・演出家)	目標値	参加者：40程度
		交流ホール		実績値	21
5	リラックス・コンサート	5年8月27日	障害のある方、未就学児なども安心して生演奏を鑑賞できるコンサート 演奏：カマプリ[池山由香(アルパ・メゾソプラノ)、すずきあゆみ(パーカッション)、藤枝貴子(アルパ)]	目標値	入場者200 (100×2回)
		交流ホール		実績値	291

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）は、仙台市における舞台芸術文化の創造・発信の中核を担う施設として「活動支援」「鑑賞支援」「交流・創造支援」の3つのミッションを掲げ事業を実施している。これらミッションに基づき、令和5年度は当館を拠点に活動する仙台フィルハーモニー管弦楽団の事業を中心に、地元の実演家や制作団体との協同で公演事業、普及啓発事業、人材養成事業を展開実施した。</p> <p>助成金の内定を受け、予算および事業内容の再編成が必要となったが、全ての事業を実施することができた。</p> <p>【普及啓発1】については、新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由に、仙台市及び市教育委員会の判断で学校を訪問してのミニコンサートの形式で開催した。さらに、オーケストラの演奏に触れる機会を創出するため、授業時間で活用できる動画コンテンツを制作し、YouTubeで配信することにより子供たちへ発信した。</p> <p>【人材養成1】については、ワークショップの成果発表公演をより被災地に近いホールでの上演と変更したが、多くの関心層に鑑賞いただくことができた。【人材養成2】については、高校演劇協議会との調整ができずに、大幅に事業を見直しが必要となり、仙台出身の演出家である三浦直之氏による高校生を対象としたワークショップとして開催した。</p> <p>このように事業内容の変更、縮小が多くなってしまったことは今後の課題として受け止めていきたいと考えているが、事業をとらえて仙台フィルハーモニー管弦楽団をはじめとした、地元で活動する文化団体、市民とのネットワークを生かしミッションを果たすことができたと感じている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>公演事業では、魅力的なプログラムの制作はもちろんのことだが、裾野拡大の最大のバリアとなる入場料金を低額に設定することで、多くの市民に芸術文化鑑賞の機会を創出できた。</p> <p>仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民によるバレエ団体「ハイパーウィンド」との共演による【公演2】では、仙台では鑑賞機会の少ない、生演奏でのバレエ公演を実現し、また、地元を拠点に活動する和太鼓ユニット「A t o a .」と協同で企画した【公演4】では、地元アーティストを市民に広く周知することができた。</p> <p>【人材養成1】では演劇ワークショップに震災伝承というテーマを組み合わせることで、充実したワークショップを開催することができたほか、多くのメディアからの取材を受けるなどの反響もあり、演劇が果たす社会的意義を見出すことができたと考えている。</p> <p>【普及啓発1】では、市内の小学生に生演奏に触れる機会を提供したほか、様々な年齢層を対象としたダンスワークショップ【普及啓発3、4】や、普段演奏会に来場することが難しい障害のある方や未就学児も入場できるコンサート【普及啓発5】を実施し好評を得た。</p> <p>これら「活動支援」「鑑賞支援」「交流創造支援」を目指した事業を展開することで、文化団体、市民とのネットワークを構築することができたことは、当館の事業スタッフとっても大きな財産となったと考えている。</p> <p>助成金を受けることで、自主財源だけでは実施が難しい収益性の低い事業にも取り組むことができ、仙台ならではの事業展開を継続して実施することができると考えている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(1) 公演事業

仙台を拠点に活動する団体、アーティストを起用した5事業を実施した。入場者数が伸び悩んだ事業もあったが、全体的に満足度は高く、鑑賞支援、活動支援のビジョンを果たすことができた。

【公演1】では「田園」をテーマにしたプログラム構成と、指揮者茂木大輔氏によるプレ講座を開催することで、深い関心を掘り起こすことを目指した。年間10回以上コンサートを鑑賞するという方が60%となったが、約90%が満足と回答した。【公演2】ではバレエ団体との協同による公演で、オーケストラ公演を初めて鑑賞したという来場者が約2割という結果となり、バレエファンを多く取り込む結果となった。【公演3】は、早々にチケットが完売したためか、初めて鑑賞したという方が全体の2%にとどまった。来場者の満足度が高く(99%)、馴染みのあるプログラムの公演がライトなクラシックファン層にも求められていることがわかった。【公演4、5】は集客には苦戦したが、アンケートでの満足度は高く(97%、91%)、今後、創作(新作)公演をどのように広報、打ち出していくかが課題となった。

(2) 人材養成事業

文化芸術に触れる入り口をつくり、将来の地域文化の担い手を育成することを目的に2つの事業を実施した。両事業ともに参加者の満足度は高かったが、【人材養成1】は、10代の受講生は23%(目標60%)という数字になってしまった。ワークショップのテーマを震災伝承に設定したことで、参加者の視点が一つになり、長期間の企画ではあったが途中離脱者も無く受講生の中に強い結束のようなものが感じられる充実した内容となった。

(3) 普及啓発事業

楽都仙台のすそ野拡大、多くの市民が集う文化活動拠点となることを目指し5つの事業を事業した

【普及啓発1】は計画を変更し、室内楽編成で小学校を訪問したコンサートとなった。要望時に比べ鑑賞者数は、大幅に減少する結果となったが、間近で演奏を鑑賞できたこと、そして曲間にトークを交えた内容で、子供たちと演奏家との距離を縮めることができたのではと感じた。【普及啓発2】の市民公募によるステージでは、目標を大きく超える50団体からの申し込みがあり、実演機会に対するニーズの高さを感じた。また地元サクソ奏者熊谷駿氏による公演は未就学児入場可の公演も実施し多くの親子連れで会場がにぎわった。【普及啓発3】では、プログラムごとに対象年齢や内容を変えていくことで、予定を大きく超える受講生が集めることができた(60名→140名)。【普及啓発4】はインフルエンザ等の影響で欠席者が多く参加者が21名(目標40名)と落ち込んだ。【普及啓発5】では目標の200名の約3倍の申し込みが集まった。席を増設して291名の来場があった。96%の方が類似の企画にまた参加したいと答えており、ふだんコンサートを聴くことが難しい層からの需要の高さを実感した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成金の内定額を受け、予算及び内容を再検討した事業が多くなってしまった。

【公演 4】については、地元アーティストと協同で事業を企画した。また広報の一環としてメディア露出し（ラジオ 2 本、新聞 2 紙、雑誌 1 誌）、アーティストの活動についても広く紹介していった。

今回大きな変更となってしまった【人材養成 2】については、高校演劇協議会との調整をまとめられなかったことが、実施内容を大きく変更した原因である。【人材養成 2】については、実施時期も 2 月と大きくずれ込んでしまったが、制作、募集、実施までの計画は適切に行えたと考える。

【人材養成 1】については、要望時は成果発表を 1 月に行う予定でいたが、震災復興交流事業が 3 月に開催されるということで全体的にスケジュールを遅らせての開催とした。多くの方にワークショップの成果を発表できただけでなく、報道においては震災関連枠で取り上げられたりもした。

令和 5 年度は助成金内定額通知を受けたのち、予算の都合で企画内容の見直しが必要となり、変更が多くなってしまったことが今年度の大きな反省点であると考えているが、見直し後の制作については計画通り行い、それぞれの目的どおり成果をあげられたと考えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【人材養成 2】は、企画の大幅な縮小を余儀なくされ、事業費が大きく削減となってしまった。令和 7 年度以降の開催にむけて高校演劇協議会とは調整を続けていきたいと考えている。

【普及啓発 1】については、新型コロナウイルス感染症対策としてアンサンブルで小学校を訪問する形式のコンサートに変更となったため、対象経費が大きくさがってしまった。事業実施については、予算の中で計画通りに実施できた。

【普及啓発 5】については、障害のある方を対象にしたコンサートとし、障害者サポート支援団体の協力を得て事業を実施し、多くの方に来場いただくことができたが、点字プログラムを無料サービスで作成することができた結果など、バリアフリーの助成金に該当する支出がなかった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

（事業の企画立案・実施・振り返り）

事業の企画立案は、舞台芸術振興課事業推進係を中心に行っている。

ホールを拠点に活動する仙台フィルハーモニー管弦楽団のほか、地域で活動する団体、個人アーティストとのネットワークを活用し、施設の特性にあった事業展開を行っている。令和5年度は下記団体に協力をいただき共同で独自の事業を企画・実施した。他団体との共同による制作は事業企画の可能性や幅を広げることにつながり、今後もこのようなネットワークを強化していきたいと考えている。

また、事業終了後は外部モニターによるフィードバックを実施し、事業の振り返りとブラッシュアップを行っている。

協力団体・個人

- ・仙台フィルハーモニー管弦楽団
【公演1～3】、【普及啓発事業1】における共同での企画制作、出演
- ・ハイパーウィンド仙台
【公演2】における制作協力（バレエダンサー公募、振り付け協力等）
- ・ファッション文化専門学校 DOREME
【公演2】における同校学生による衣装デザインを協力
- ・和太鼓ユニット Atoa.
【公演4】協同による企画制作および出演
- ・一般社団法人東北えびす
【人材養成1】における企画制作と成果発表公演の演出
- ・せんだい3.11メモリアル交流館
【人材養成1】における被災地域の取材協力
- ・三浦直之（仙台市出身、劇作家・演出家）
【人材養成2】における講師
- ・一般社団法人J&C文化芸術振興会（サクソ奏者 熊谷駿）
【普及啓発3】におけるコンサート企画協力および出演
- ・からだメディア研究室
【普及啓発3, 4】における共同での企画制作と当日の運営
- ・宮城県障害者芸術活動支援センター（SOUP）
【普及啓発5】における障害者支援サポート協力

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公演 1】事前のプレ講座と解説付きの演奏会を実施した。クラシック音楽への関心がさらに深まったという声が多くあった。初めてという方の割合が低かったが、クラシックファンの関心を掘り下げることができた企画だった。【公演 2】仙台フィルハーモニー管弦楽団と地元で活動するバレエ団体「ハイパーウィンド仙台」、そして衣装デザインは地元の服飾専門学校の協力を得て実施した。オーケストラの演奏は初めてというバレエファン、服飾専門学校の学生に関心を持っていただくきっかけとなった。【公演 3】3 大交響曲をプログラムにすることでクラシック初心者の来場を期待したが、チケットが早々に完売したため十分に目的を達成できなかった。ただし来場者からはプログラムに対して好評の声が多く、ライトユーザーからも名曲コンサートに対する需要の高さを感じられた。【公演 4】地元を拠点に活動する和太鼓チーム Atoa. との共同制作による公演で彼らが持つネットワークを活用して様々なジャンルの舞踏家との共演が実現した。終演時にはスタンディングオベーションが起こるほどの完成度となった。ホール主催事業の広報の一環でメディア広報を行ったが、地元アーティストを広く市民へ紹介することにもつながった。【公演 5】地元出身の詩人にスポットを当てた公演として仙台の文化人を広く紹介できた。

【人材養成 1】地元演劇人、震災伝承施設「せんだい 3.11 メモリアル交流館」と協働で事業を展開した。震災により大きな被害を受けた仙台市東部沿岸地域に伝承される物語や人々の生活などを資料で調べ、かつてそこに住んでいた市民からヒアリングを行って演劇公演を制作するというワークショップで、受講生たちが熱心に取り組む様子に心を打たれた。メディアからも多く取り上げられ、演劇を通じた震災事業としてのモデルケースとなった。【人材養成 2】高校生を対象としたワークショップとして開催した。開催時期の関係で十分な受講生が集まらなかったことは残念だったが、仙台出身の劇作家・演出家を起用した同様の企画は今後も取り組んでいければと考える。

【普及啓発 1】新型コロナウイルス感染症の影響でコンサートホールでのフルオーケストラの公演は実現できなかったが、仙台フィル団員の演奏とお話を身近で聞く機会を提供できたことは成果だと考える。【普及啓発 2】公募した市民団体によるステージは当初の予定を超える申し込みがあり、ステージ数を増やして開催した。実演機会へのニーズを強く感じた。有料公演等で魅力的なプログラムを実施し来場者を増やすことで、彼らのステージへの集客も集められるような展開を考えていきたい。【普及啓発 2】親子、高齢者など対象を変えて 3 プログラムを実施した。想定以上の申し込みがあり、ニーズの高さを感じた。【普及啓発 3】

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◆制作全般について

多くの芸術団体、市民団体の協力をいただき事業を展開した。ホールが蓄積してきたネットワークをさらに広げることで幅広い事業展開が実現することを目指す。

また、地元を拠点に活動するアーティストにも多く協力いただいた。彼らを活用することでより仙台らしい事業を企画していければと考えている。

助成金の内定を受け4月以降に企画を再検討した事業も多く、当初の予定から変更が多くなってしまった。6年度以降は着実に実施できる体制を整え、企画していければと考えている。

◆広報について

令和5年度はチケットを販売する公演事業だけでなく、ワークショップなども積極的に広報活動を行い、新しい関心層の掘り起こしを行った。さらに紙媒体、電波媒体に加えWEB、SNS等も積極的に活用し集客を図った。残念ながら十分な集客を図れなかった事業もあったが、広報活動のノウハウを蓄積し、それらを効果的に組み合わせる工夫をし、今後の事業展開に生かしていければと考えている。

また、広報は集客だけを目的としたものではなく、仙台の文化的な人材を広く市民に紹介するという重要な意義もある。私たちの事業を通して両面の広報を実現できるように考えていきたい。

◆他施設、他部署等との連携について

【人材養成1】では、震災伝承施設「せんだい3.11メモリアル交流館」や、沿岸寄りに立地する「宮城野区文化センター」と共同で事業を展開し、企画内容や事業展開の幅を広げることができたと考えている。

他部署、他施設ともコミュニケーションをとり、新しい試みにも挑戦していきたい。

◆財源の確保について

低金利を受けて自主事業の財源が厳しくなっている現在、助成金や協賛金などを獲得することで事業の充実を図ってきたい。

制作面でも、より低予算で多くの方に文化に触れていただけるような事業も企画していくほか、情報収集と市民のニーズを把握し、集客増とチケット収入を増やす取り組みにも力を入れていく。